

## 令和4年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・児童が興味や関心をもつ題材を取り上げ、身の回りのことから表現方法を知ることができるようになってきた。
- ・簡単な活動から「分かる」体験を積み重ねることができた。
- ・基本的な表現はパターンを変えながら繰り返し学習し、習得できるようになってきた。

#### (2) 課題

- ・5つの領域①「聞くこと」②「読むこと」③「話すこと（やり取り）」④「話すこと（発表）」⑤「書くこと」それぞれの学習内容を、児童が慣れ親しむことができるように授業展開を行っていく。
- ・基本的な表現の習得の差により、自信がもてず消極的な児童への対応。
- ・ゲーム、クイズ、チャンツなどの活動を通して楽しむ様子はある。しかし、他者との外国語によるコミュニケーションを行うとなると、目的や場面に応じて、どう伝えたらいいかわからなくなってしまうことがある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率

令和4年度結果	
第6学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも1.9ポイント下がった。また、今年度の目標値よりも0.9ポイント下回っている。領域別にみると、単語の読みや日常会話の聞きとり、アルファベットを書くことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。

#### (2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の聞き取り問題では、留学生が答えた内容に合う絵を選択する問題が出題されている。好きな教科の聞き取りでは、「算数」と「社会」の名前を正確に覚えられておらず、誤答が多かったと考えられる。また、道案内の具体的な情報の聞き取り問題では、正答の反対の方向を選択する解答の割合が高かった</li> </ul>	<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な位置を表す語句を選び、英文を完成させる問題や、家族を紹介する英文の作成問題では、文の初めの「He」や「She」の書き出しに気を付け、正確な記述ができ、正答が多かった。例文や選択肢があることで、視覚的に考えられ、正答に必要</li> </ul>	<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式の問題では、「I want to eat」や「I want to go to」に続く自分の行きたい国や食べたい物を選択し、正しい英文を作成することができた。</li> <li>・例文を参考に、英文を作成する問題では、簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができ、正答率が高かった。前年度に比べて、目標値に近づいてお</li> </ul>

<p>め、正答に必要な情報が捉えられていないことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットの書きかえの記述問題では、「Y」の大文字から小文字への書きかえを4線上の書く位置や誤答のアルファベットの記述があった。大文字と小文字の区別やアルファベットを覚えられていないことが考えられる。</li> </ul>	<p>な情報を理解し、解答できていると考えられる。</p>	<p>り、このことから英文を作成することについては、力が身に付いてきたと考えられる。</p>
---	-------------------------------	--

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

関心・意欲・態度	慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が楽しめるように、コミュニケーションやゲームをする場面を多くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間に1センテンスなど、スモールステップで理解できるように単元を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を活用して、英語だけでなく多様な言語に触れることで、言語、文化の違いに気付けるようにする。</li> </ul>

#### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ったり、日常生活に関する簡単な事柄で短い話を聞いて内容を捉えさせる。</li> <li>・アルファベットの大文字・小文字を識別したり、読み方を発音したりして、慣れ親しませる。</li> <li>・児童が学習内容（事柄・話題）に応じた自分の考えや気持ちを伝えあうことができるように、教師がペア、グループ、クラス全体と授業形態を変える工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合えるような学習活動を取り入れる。</li> <li>・児童がALTや講師のやりとりを見て、全て理解できなくても、ALTや講師が話すスピードを変えたりキーセンテンスを強調したりと工夫し、児童が自分なりに場面や状況を考え、内容理解に努めさせる。</li> <li>・学習指導要領に示された言語の使用場面や働きの例を踏まえて設定し、活動に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な場面で、簡単な語句や基本的な表現を用いたコミュニケーション活動から自信をもたせ、他者との関わりを積極的に行えるようにしていく。</li> <li>・相手によりよく分かってもらう経験を積ませるための場の設定として、自分の（行きたい国、食べたい物）をテーマに設定して、自分の考えや気持ちを選択できるようなコミュニケーション活動を取り入れる。</li> </ul>